

課題 8 . 愛知県予防接種センター事業

活動項目	活動項目別の実績(概要)
実施活動	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 接種要注意者、海外渡航者等に対する予防接種の実施            予防接種実施件数 1,504件 契約市町村数 20市町</li> <li>2. 保健医療相談及び情報提供            相談件数 922件</li> <li>3. 予防接種センター調査検討委員会の開催            調査検討委員会1回、研究部会2回</li> <li>4. 調査研究「BCG接種後のコッホ現象報告事例に対する予後調査」について            「個別接種医療機関における直接BCG接種後の局所所見の観察」について</li> <li>5. 愛知県医師会主催の研修において、研修資料の監修及び報告</li> <li>6. 愛知県健康対策課主催感染症研修会において、活動実績報告</li> </ol>
教育・研修	愛知県医師会主催 予防接種研修会 平成18年2月28日(火) 報告「予防接種法施行令等の改定に伴う愛知県内の状況」 総合診療部長兼保健室長 山崎嘉久 * 研修会資料の監修
保健・医療相談	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談内容は、「接種時期・方法」に関する相談が最も多く61%を占めた。</li> <li>2. 相談者は本人・家族が約8割と多く、その相談内容は「基礎疾患と予防接種」次いで「接種スケジュール」で合わせて7割以上を占めていた。</li> </ol>
情報サービス	ホームページに継続して掲載 「予防接種センターのご案内」
調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「BCG接種後のコッホ現象報告事例に対する予後調査」            今後のBCG接種実施参考とするため、平成17年4月から11月までの期間に、愛知県健康福祉部健康対策課に報告されたコッホ現象事例(コッホ現象事例報告書)をもとにコッホ現象報告事例に対する予後調査を実施。</li> <li>・「個別接種医療機関における直接BCG接種後の局所所見の観察」            ある個別接種医療機関における直接BCG接種後の局所所見の観察から、感染診断としての局所所見の意義について考察。</li> </ul>
学術活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ワクチン接種担当医師に対する自己啓発方式の研修手法の評価」            山崎嘉久 2005.9.16 第64回日本公衆衛生学会(札幌市)</li> <li>・「麻疹ワクチン接種医師への自己チェック表を用いた啓発活動の効果」            中澤和美 2005.10.8 第51回日本小児保健学会(下関市)</li> </ul>

実施活動項目ごとの評価：愛知県予防接種センター

<p>評価の方法・手段</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談件数と相談内容の分析</li> <li>・接種要注意者等への予防接種実施件数と内容の調査</li> <li>・「BCG 接種後のコッホ現象報告事例に対する予後調査」についての効果判定</li> </ul>
<p>評価の概要</p>	<p>1. 有用性</p> <p>( 1 ) 相談内容では「接種時期・方法」が61%と最も多く、次に「海外渡航」28.9%であり例年同様の傾向を示している。なお、「海外渡航」に関する相談は昨年度に比較すると64件の増加で、割合も5ポイント増となった。「接種時期・方法」の中では「基礎疾患と予防接種」「接種スケジュール」が多く、相談者は家族がその多くを占めていた。このことは、契約市町からの依頼で実施している要注意者への予防接種の実施や相談に対応しているといえる。また、「接種スケジュール」の相談が多いのは、当センターが予防接種センターとして、市町村からの利用が図られている表れではないかと予想された。その他相談内容の状況は、平成14、15、16年度と同様の結果であった。</p> <p>( 2 ) 予防接種実施件数は年々増加し、昨年度の20%増で、1,504件であった。( 1 )の相談内容の分析から、家族からの相談で「基礎疾患と予防接種」が多かったこと、また、契約市町も20市町となり、当予防接種センターの存在が認識されつつあると思われた。</p> <p>2. 問題点</p> <p>相談内容の分析から、相談者は本人・家族が圧倒的に多く、海外渡航の相談を除けば市町村が実施している定期予防接種に関する相談である。このことから、当予防接種センターの設置目的でもある相談体制の充実のため、市町村等との情報の共有が必要だと思われる。</p> <p>3. 事業継続に関する意見</p> <p>県の予防接種センターとしての位置付けであり、予防接種に関する相談のニーズもある。また、契約市町村も増え市町村からの期待にも応えられるようさらに充実していく。</p>

予防接種実施状況

	H17.4月	5月	6月	7月	8月	9月
三種混合	6	7	9	3	8	12
二種混合	2	4	1	2	0	0
破傷風	4	4	1	4	5	5
日本脳炎	4	5	3	6	0	2
ポリオ	11	5	5	6	6	6
麻疹	8	7	11	7	6	7
風疹	1	4	6	1	4	1
麻疹風疹混合	-	-	-	-	-	-
ムンプス	3	4	4	3	2	2
水痘	3	6	5	2	6	2
ツベルクリン	2	5	1	2	2	2
BCG	3	6	2	8	4	3
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0
B型肝炎	12	7	3	6	9	6
A型肝炎	4	7	4	15	5	6
ジフテリアトキソイド	0	0	0	0	0	0
狂犬病	13	6	1	6	6	5
肺炎球菌	0	4	0	0	0	1
コレラ	0	0	0	4	0	0
計	76	81	56	75	63	60

	10月	11月	12月	H18.1月	H18.2月	H18.3月	計
三種混合	5	6	4	7	5	12	84
二種混合	0	0	0	2	1	0	12
破傷風	3	2	5	2	4	12	51
日本脳炎	1	0	1	2	0	4	28
ポリオ	11	2	2	5	4	13	76
麻疹	6	5	2	11	4	4	78
風疹	4	0	2	2	1	9	35
麻疹風疹混合	-	-	-	-	-	2	2
ムンプス	3	1	2	4	0	7	35
水痘	4	2	5	4	0	0	39
ツベルクリン	0	0	0	3	0	0	17
BCG	2	0	0	6	3	5	42
インフルエンザ	7	592	132	23	0	0	754
B型肝炎	4	3	10	7	2	18	87
A型肝炎	2	7	6	4	4	19	83
ジフテリアトキソイド	0	0	0	1	0	0	1
狂犬病	1	2	4	5	9	11	69
肺炎球菌	1	0	0	0	1	0	7
コレラ	0	0	0	0	0	0	4
計	54	622	175	88	38	116	1504

予防接種相談内容

( 相談分類相談者別 )

平成17年4月～平成18年3月

相談分類		相談者続柄			計	割合
中分類	小分類	本人・家族	専門家等	その他・不明		
接種時期 ・方法	基礎疾患と予防接種	279	32	6	317	61.0%
	既往症と予防接種	21	0	0	21	
	疾患罹患と予防接種	11	1	0	12	
	妊娠と予防接種	1	1	0	2	
	接種スケジュール	86	23	5	114	
	接種期間超過	17	8	1	26	
	実施医療機関	16	0	0	16	
	その他	47	4	3	54	
	中計	478	69	15	562	
副反応	ツ反・BCG	1	1	0	2	2.0%
	ポリオ	2	0	0	2	
	三種混合(DPT)	5	0	0	5	
	麻疹	2	0	0	2	
	インフルエンザ	5	1	0	6	
	その他	1	0	0	1	
	中計	16	2	0	18	
効果	ツ反・BCG	2	0	0	2	2.4%
	ポリオ	5	2	2	9	
	三種混合(DPT)	0	0	1	1	
	風疹	3	0	0	3	
	麻疹	0	1	0	1	
	ムンプス	0	0	2	2	
	インフルエンザ	2	0	0	2	
	B型肝炎	0	0	1	1	
	狂犬病	0	1	0	1	
	中計	12	4	6	22	
海外渡航	必要な予防接種・接種計画	192	6	50	248	28.9%
	海外の予防接種制度	3	0	0	3	
	保健医療事情	1	0	0	1	
	予防接種実施機関	5	0	1	6	
	その他	4	3	1	8	
	中計	205	9	52	266	
その他	その他	24	18	12	54	5.9%
	中計	24	18	12	54	
計		735	102	85	922	100.0%
		79.7%	11.1%	9.2%	100.0%	

予防接種センター調査検討委員会

実施日時	平成18年3月15日(水)午後2時から午後3時30分まで
出席者	<p>名古屋市立大学大学院医学研究科助教授 石川達也、愛知県厚生農業協同組合連合会 昭和病院副院長 尾崎隆男、愛知県医師会理事 河村昭徳、名鉄病院予防接種センター 部長 宮津光伸、名古屋大学医学部小児科講師 木村宏、          愛知県健康福祉部健康対策課主幹 片岡博喜(代理 感染症G主査 榊原徹)、          名古屋市健康福祉局健康増進課長 伊東高(代理 結核感染症係長上田耕二)、          あいち小児保健医療総合センター長 長嶋正實 計8名          (欠席:藤田保健衛生大学医学部教授 浅野喜造)          事務局:総合診療部長兼保健室長 山崎嘉久、保健室主査 中澤和美</p>
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成16年度予防接種センター事業実績について</li> <li>2 調査研究について             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「BCG接種後のコッホ現象報告事例に対する予後調査」について</li> <li>・「個別接種医療機関における直接BCG接種後の局所所見の観察」について</li> </ul> </li> <li>3 予防接種センター事業に関する意見交換</li> </ol>
討議内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成17年度予防接種センター事業実績について報告</li> <li>2 調査研究について             <ul style="list-style-type: none"> <li>「BCG接種後のコッホ現象報告事例に対する予後調査」及び、「個別接種医療機関における直接BCG接種後の局所所見の観察」について報告、意見交換。</li> <li>・四国の調査で、コッホ現象の発赤が短期間で消えるのは、体内に異物を入れたことによる局所的なりアクションで問題ないと聞いたが。</li> <li>・コッホ現象をもって、早期に結核を発見するためのスクリーニングであると。</li> <li>・ツ反なしでBCGなので、わずかでも本当の患者を見落とすことがあってはならない。医療者側もきちんとスクリーニング、研究することが必要で比較検討は難しい。</li> <li>・名古屋市は4月から1ヶ月半位はコッホ現象の報告が10数例あったが、宮津先生とも相談しコッホ現象ではないとinformationされたようで、その後報告がない。</li> <li>・今回の経験を生かして、どの程度がコッホ現象なのか、何らかの基準を作って方法論を変えないといけない。私(宮津)の場合では、2-3日で針後があり3日たっても消えない場合はいらっしやいと説明している。</li> </ul> </li> <li>3 その他、広域化について情報交換             <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月~広域化、料金はワクチン込みで団体契約。江南市・犬山市・扶桑町・大口町。</li> <li>・少しずつ地域ごとにまとまってきている。全県1区はないだろう。</li> <li>・県で調査しているが、25~26県で広域化していると回答。ただ、全市町村が全県1区でというところはあまりない。また大都市だけ除くなどバラバラである。</li> <li>・予防接種が保護者同伴でということで、さらに、学童期の集団が事実上不可能、個別化が進むと思われる。</li> <li>・接種率の低下が問題になる。学校教育での予防接種への啓発が必要になる。</li> </ul> </li> </ol>

予防接種センター調査検討委員会研究部会

〔第1回〕

実施日時	平成17年5月25日(水)午後7時から9時15分まで
出席者	医療法人ネオキッズニコニコ子どもクリニック院長荻野高敏、医療法人佐々木子どもクリニック院長佐々木邦明、名古屋掖済会病院小児科部長西川和夫、医療法人花田子どもクリニック院長花田直樹、愛知医科大学小児科講師浜口典子、名鉄病院予防接種センター部長宮津光伸 あいち小児保健医療総合センター保健室長山崎嘉久 計8名 (欠席：川井小児科クリニック川井進)
議題	1. 麻疹ワクチンに関する質問への回答について 2. 平成17年度の調査研究について
討議内容	1 麻疹ワクチン質向上に関する調査時の質問への回答について、各委員に分担、事務局で集約後各委員に再確認する。その後当センターホームページに掲載。 2 今年度の調査研究について テーマ：BCG接種に関すること。結核予防法が改正され、H17.4.1からBCG接種時期が生後3か月から6か月までとなった。これに関連する様々な問題、地域(現場)での混乱状況を調査する。 調査時期：秋以降 調査対象：県内全市町村 調査の内容等について要検討 *健康対策課結核担当と相談した上ですすめる。

〔第2回〕

実施日時	平成18年3月2日(水)午後7時から9時10分まで
出席者	医療法人ネオキッズニコニコ子どもクリニック院長荻野高敏、川井小児科クリニック川井進、名古屋掖済会病院小児科部長西川和夫、医療法人花田子どもクリニック院長花田直樹、愛知医科大学小児科浜口典子、名鉄病院予防接種センター部長宮津光伸、あいち小児保健医療総合センター保健室長山崎嘉久 計6名 (欠席：医療法人佐々木子どもクリニック院長佐々木邦明)
議題	1. 平成17年度愛知県予防接種センターの予防接種実施・相談状況報告 2. 調査研究・「BCG接種後のコッホ現象報告事例に対する予後調査」について 「個別接種医療機関における直接BCG接種後の局所所見の観察」について 3. 来年度の調査研究について
討議内容	1 平成17年度予防接種実施及び相談状況について報告 2 調査研究「BCG接種後のコッホ現象報告事例に対する予後調査」 平成17年4月～11月までのコッホ現象報告事例24人中、住所氏名の分かる23人のうち同意の得られた7人に対し行った結果について報告。 「個別接種医療機関における直接BCG接種後の局所所見の観察について」まとめたものを元に意見交換。 3 来年度の調査研究について ・岡崎市のにおいて百日咳が発生しているのはDPT接種時期が遅いのではないかとの意見があり他の地域の状況を知りたい。また、大人の百日咳が増えている状況もある。 DPT接種時期、接種勧奨年齢、接種が終了した年齢等を調査する。 ・平成13年度実施した「予防接種実施状況アンケート」5年が経過しており状況が変化していると思われる。来年度に再調査。